



庄原市指定天然記念物「大古屋の大もみじ」 後継樹が里帰り

ー林木遺伝子銀行 110 番による樹木の増殖サービスー

ポイント

- ・広島県庄原市の天然記念物「大古屋の大もみじ」（樹種：イロハモミジ）の後継樹の苗木が、国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所林木育種センター関西育種場から里帰りします。

概 要

岡山県勝田郡勝央町にある国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所林木育種センター関西育種場では、我が国の貴重な林木遺伝資源の保全を図るとともに、品種改良等に活用することを目的とした林木ジーンバンク事業を実施しています。

この事業の一環として、各地の天然記念物や巨樹・名木等の収集・保存と併せて、所有者等の要請により後継樹を増殖するサービス「林木遺伝子銀行 110 番」を行っています。このサービスを利用した庄原市教育委員会からの増殖の要請を受けて、接ぎ木により増殖し育てた「大古屋の大もみじ」の後継樹が里帰りします。

○里帰り日時及び場所 日 時：令和2年3月3日（火曜日）午後1時30分～（雨天決行）
場 所：広島県庄原市東城町内堀1100-1
小奴可自治振興センター

○里帰りする苗木本数 3本

お問い合わせ先

○国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所林木育種センター関西育種場
事業責任者：遺伝資源管理課 課 長 坂本 庄生（さかもと しょうき）
担当者： 収集管理係長 山本 あゆみ（やまもと あゆみ）
広報担当者：連絡調整課 連絡調整係長 林 勝洋（はやし かつひろ）
Tel：0868-38-5138 Fax：0868-38-5139

○庄原市教育委員会
担 当 者：生涯学習課文化財係 今西 隆行（いまいにし たかゆき）
Tel：0824-73-1189 Fax：0824-73-1254

本資料は、広島県政記者クラブに配付しています。



背 景

全国には、学校や神社など身近な場所で地元の人々に親しまれ、ふるさとのシンボルとなっている巨樹・名木等が数多く存在します。こうした巨樹・名木等は、長い年月にわたって、風雪に耐え生育し続けているので、自然環境に対する適応性や抵抗性に優れている可能性が高く、林木遺伝資源として貴重なものです。

このため、関西育種場では、天然記念物や巨樹・名木等の収集・保存を進めるとともに、樹木が衰弱している等で所有者等からの要請により後継樹の苗木を増殖するサービス「林木遺伝子銀行 110 番」を平成 15 年から実施しています。当育種場では平成 30 年度までに 90 本の巨樹・名木等の後継樹の里帰りを実施してきました。後継樹の苗木は、さし木や接ぎ木で増殖したクローン苗木であり、親木と同じ遺伝子を持っていますので、大きく成長することが期待されます。

内 容

今回里帰りする後継樹の親木は、広島県庄原市東城町にある市指定天然記念物「大古屋の大もみじ」の内のイロハモミジ（樹高約 10m、幹周約 2.5m）です。

「大古屋の大もみじ」は、大古屋谷の中央にある大古屋鉦（たたら）の跡に生えるオオモミジとイロハモミジの 2 本で、美しい樹形をしており、初夏の青葉・秋の紅葉と鑑賞価値が高い名木です。樹齢は不明ですが、どちらもかなりの大木であり、伐採されなかったのは「たたら」の目印としていたためとも推測されています。

庄原市教育委員会は、当初、樹勢が弱っていたオオモミジの増殖依頼を計画しましたが、新芽が出ていない状況だったため計画を断念し、今後の衰退が懸念されるイロハモミジについて、後世に継承する取り組みを行うこととしました。

平成 28 年 11 月に庄原市教育委員会より林木遺伝子銀行 110 番に申請があり、平成 29 年 4 月に親木から枝（穂木）を採取し、当育種場で接ぎ木増殖を試みました。無事増殖に成功し、野外に植栽しても生育できる見込みがたった 3 本を令和 2 年 3 月 3 日に里帰りさせることとなりました。

写 真



大古屋のイロハモミジ（親木）



接ぎ木増殖した後継樹